

2025年7月7日

各位

会社名 株式会社 坪田ラボ  
代表者名 代表取締役社長 坪田 一男  
(コード番号：4890 東証グロース市場)  
問合せ先 企画管理本部マネージャー 木下 淳  
(TEL 03-6384-2866)

### 第7回日本近視学会総会において、16演題を発表

当社代表取締役 CEO 坪田一男および関連する研究チームは、2025年6月28日(土)および29日(日)にコンgresクエア グラングリーン大阪で開催された第7回日本近視学会総会において16題の演題発表を行いました。

日本近視学会は、近視および病的近視の発症機序や治療に対する学術研究を推進し、近視による失明予防を進めている、医師、視能訓練士等450名程度、15社の賛助会員(2025年3月31日時点)を擁する組織です。

学会名 第7回日本近視学会総会
URL <a href="https://www.congre.co.jp/myopia2025/information.html">https://www.congre.co.jp/myopia2025/information.html</a>
会期 2025年6月28日(土)～29日(日)
会場 コンgresクエア グラングリーン大阪

今回発表の演題および発表者は以下の通りです。(発表順)

- 6月28日(土)  
「Nationwide Myopia Survey in Japan and Introduction of Japan-Developed Therapies」 Hidemasa Torii  
「学童期における脈絡膜厚変化量と環境・遺伝要因の関連性の検討」 マシアス 妙子  
「マウスの後毛様体動脈は硝子体動脈の分枝として生じる」 今西 哲  
「脈絡膜局所のマクロファージ極性がマウスの屈折近視化に影響を与える」 侯 靖  
「脈絡膜における血管作動性腸管ペプチドの発現パターンの検討」 齋藤 英二郎  
「上唾液核の抑制は脈絡膜の菲薄化を介して近視を誘導する」 栗原 俊英  
「ヨウ素酸ナトリウム注入による脈絡膜変性モデルマウスの確立」 福地 智一  
「マウス脈絡膜に投射する交感神経は近視進行に関与する」 黄 一諾

● 6月29日（日）

「OCULUS Myopia Master®と近視抑制治療の今」 四倉 絵里沙

「近視生物学の発展とその臨床応用」 栗原 俊英

「屋外環境におけるバイオレットライト暴露量及びメガネレンズの透過率が与える影響」 近藤眞一郎

「マンガン飽和ラクトフェリンによる近視抑制効果」 坪田 一男

「紫光照射により活性化される脳領域の解析」 吉田 哲

「脈絡膜肥満細胞は近視進行に重要な役割を担う」 Jue Shi

「長期近視誘導マウスモデルにおけるクロセチンの網膜機能保護効果」 張 雨竹

「網膜色素上皮細胞における Yap/Taz による眼球形態制御機構の存在」 池田 真一

【コメント】

「近視は、将来的に失明を引き起こす可能性のある疾患のひとつであり、特に若年層を中心にその有病率が世界的に増加していることは、深刻な社会課題となっています。坪田ラボおよび連携する研究機関のグループは、この課題に対して、基礎研究から臨床応用に至るまで多角的なアプローチで取り組んでおり、予防・進行抑制に向けた新たな知見を日々蓄積しています。

今年の日本近視学会総会では、私たちの研究グループから16の研究成果を発表し、光環境や腸内細菌、遺伝要因など多様な視点から近視を捉えた最新の成果を共有しました。本総会は、近視研究の最前線に立つ研究者が集い、活発な議論と情報交換が行われる貴重な場です。私たちにとっても、新たな研究テーマの着想や共同研究の可能性、さらには事業化への展望を広げる大きな契機となりました。今後も、科学的根拠に基づいたイノベーションを通じて、世界中の人々の視機能の健康維持に貢献してまいります。」

以 上